

超構造セラミックスの1次元電気伝導機構解明 ～最先端電子顕微鏡と大規模理論計算を駆使～

One-Dimensional Quantum Confinement in a Single-Phase Layered Structure Ceramics LaTiO_x

斎藤光浩 王中長 (東北大大学 AIMR)
Johannes Georg Bednorz (IBM Zurich 研)

▶ Key words

STEM, First-Principle Calculation, Layered Perovskite, LaTiO_x

セラミックス内に電気の通り道を発見 / Formation of 1-Dimensional Conduction Channel.

セラミックスの電気特性は、セラミックス特有の複雑な結晶構造のわずかな変化(歪みや欠陥など)によって著しく変化する。逆に、歪みや欠陥を意図的に制御すれば、電気特性の向上、さらには新奇な特性の発現が期待される。本研究では、超構造セラミックスであるチタン酸ランタン(LaTiO_x)に含まれる酸素成分の割合 x を変化させることで、電気の流れ方が劇的に変化する現象のメカニズムを、最先端走査透過型電子顕微鏡およびスーパーコンピューターを用いた大規模理論計算を駆使して明らかにした。

Oxide heterointerfaces often trigger unusual electronic properties that are absent in respective bulks. Here, direct evidence is offered for spontaneously assembled local structural distortions in a single-phase bulk, which confine electrons to within an atomic layer with notable orbital reconstruction and coupling, close the forbidden band, induce a ferromagnetic ordering, and give rise to a strongly anisotropic, spin-polarized quasi-one-dimensional electron gas.

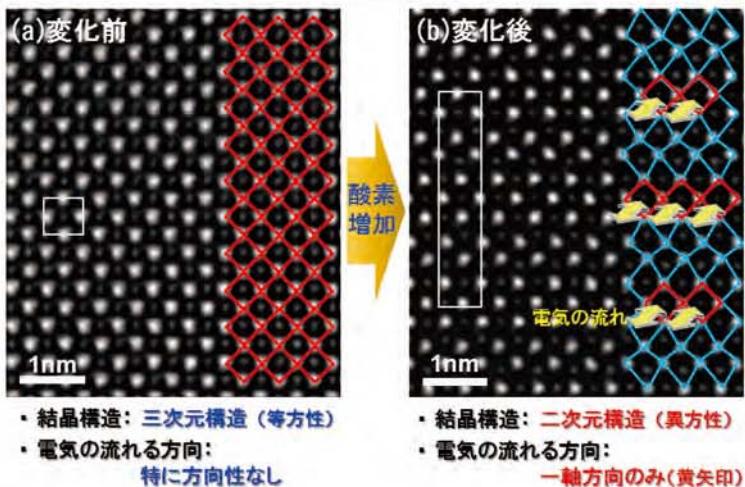


図1酸素量によるセラミックスの構造変化を捉えた写真：(a) 変化前, (b) 変化後

【成果】ノーベル物理学受賞者のBednorz博士(IBMチューリッヒ研究所)および東北大大学(AIMR)の共同研究チームが、東京大学・微細構造解析プラットフォーム拠点の共用設備を活用し、また、研究支援を受け、得られた成果である(写真)。超高分解能の球面収差補正器搭載型STEMを駆使することで、これまで難しいとされてきた超構造セラミックスの物質を構成する原子の可視化(図1)や元素識別化(図2)、原子構造や電子状態を決定することができた。

さらに理論計算との併用により、 LaTiO_x 超構造セラミックスの組成によって、結晶構造変化や1次元的な電気伝導が誘起されることが明らかにされた(図3)。

本研究成果は、平成25年1月11日発行の独科学誌「Advanced Materials 25巻2号(2013年)」に掲載^[1]された。



写真 Bednorz博士と研究チームとの打ち合わせ

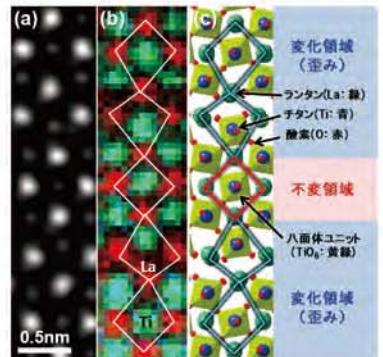


図2 構造変化後のセラミックスの特異な原子配列：(a)電子顕微鏡写真,(b)元素識別法による原子分布図(赤: ランタン原子, 緑: チタン原子), (c)結晶構造の模式図

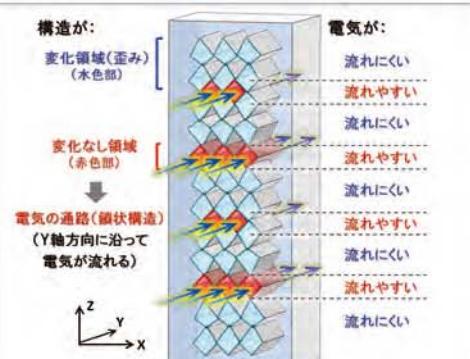


図3 構造と電気の流れ方の関係を示した模式図

Reference:

Advanced Materials, 25, 218 (2013).

[1] Z. Wang, L. Gu, M. Saito, S. Tsukimoto, M. Tsukada, F. Lichtenberg, Y. Ikuhara, and J. G. Bednorz

▶ Contact

斎藤光浩, 王中長 (東北大大学 AIMR) / Johannes Georg Bednorz (IBM Zurich 研究所)
Mitsuhiko Saito, Zhongchang Wang (AIMR, Tohoku University, Japan) /
Johannes Georg Bednorz (IBM Zurich Research, Switzerland)